

平成25年度農業情報処理競技大会指導講評原稿

川島 一秀（群馬県立伊勢崎興陽高等学校）

情報処理技術競技は、農業情報処理の向上を目指し、普段の授業で身に付けた表計算ソフトウェアや文書作成ソフトウェアを活用して、問題を解決することが求められています。

大会は、昨年度と同様に会場校（伊勢崎興陽高等学校）のPCを使い、当日使用するPCは抽選とするなど、全員が同一条件で競技を行いました。

この競技はデータ入力量が多いこともあり、時間内に仕上げるためにも、入力スピードを高める必要があります。そのためには、普段の授業からホームポジションでキー入力するなど、日々の授業や練習のなかで入力スピードを意識した練習が必要です。

本年度は「酪農に関する問題」が出題されました。配点は、筆記試験（情報知識）：100満点、表計算処理：500点満点、グラフ作成：200点満点、考察文書処理：200点満点の計1000点満点で行われました。審査員会で検討した結果、実技では表計算、グラフ作成、考察文書の作成について順番を問わないことにしました。

大会当日は、27名（欠席者：1名）が競技に挑み、1/3にあたる9名が入賞しました。各競技の平均点は、情報知識が30.9点(49.6)、表計算処理217.0点(321.5)、グラフ作成6.6点(35.0)、考察文書処理7.9点(20.0)で、合計点の平均は262.3点(426.0)点でした（（ ）内は平成24年度の平均値）。本年度の入賞ボーダーラインは300点(550)点でしたので、昨年度の問題よりも難易度がかなり上がりました。

以下、問題別に気づいた点を述べます。

【情報知識】

筆記試験は、普段から情報に関する興味関心をもち、疑問点があったら、教科書でしっかりと確認する癖を付けるなど、意識して学習する必要があります。

【表計算処理】

表計算の最高点は390点(470)であり、上位4名は300点以上得点していた。解答に際しては、問題中の「指示」をしっかりと読み込む必要があります。

【グラフ作成】

グラフ作成で得点をとれた生徒は3名で、21名は0点であった。表計算の問題がすべてできなくてもグラフ作成できる部分があるので、できる部分から解答する必要がある。

【考察文書】

今大会から競技順を問わないことにしたため、考察文書から作成する生徒もあり、12名が得点できた。考察文は表計算やグラフ作成をしてから作成するのが本来の形である。回答欄をすべて空欄で完璧な形で仕上げて、たいした得点となるわけではないので、順当に表やグラフを作成してから解答すべきだと思う。

本年度の「農業情報処理競技会」大会で入賞した代表2名が、本県の代表として全国大会（首都圏大会・公開種目）に出場しましたが、残念ながら入賞はできませんでした。全国レベルに達するためには、一層の努力が必要であるということかもしれません。

この大会は県内各校の農業情報処理レベルの維持向上に大きな役割を果たして来ましたが、来年度以降も充実した大会とするためにも、「農業情報処理競技」の在り方を検討する必要があるかも知れません。